教員氏名：正保　佳史（教育学科･スポーツ教育専攻／准教授）

１．教育の責任（何をやっているか）

教育学部教育学科スポーツ教育専攻に所属し、主に中学校教諭一種免許状（保健体育）を取得するために必要となる「体育実技Ⅰ」「中等教科教育法Ⅲ」「中等教科教育法Ⅳ」を担当している。その他に「生涯スポーツⅡ」や「地域スポーツ指導Ⅰ」などの学校教育やスポーツ指導の現場で必要となる指導や安全面に関する演習科目を担当している。また、学生指導の基盤に位置付けられている「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」「総合ゼミⅠ・Ⅱ」や４年間の学修の集大成である卒業論文執筆のための「教育学研究法Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」においてゼミ担任として担当している。

２．教育の理念（なぜやっているか）

生理学を専門としているが、これまでに健康や保健に関することを研究として取り上げてきた。本学では、「中等教科教育法Ⅲ」「中等教科教育法Ⅳ」において保健体育の保健分野の指導法を中心に授業を行っている。これらの科目では、基礎理論も取り扱うが、中学生や高校生を指導するための模擬授業なども重点的に取り扱うことで学校現場においても実践力のある学生の育成に力を入れている。

３．教育の方法（どのようにやっているか）

①実技系授業

「体育実技Ⅰ」では、学生が体つくり運動や器械運動の練習を通してその難しさや楽しさを実感しながら指導に活かせるように考えさせる発問を授業に中で多く取り入れている。また、実際に器械運動を指導する場面においては、見本を見せたり、安全面に配慮したりすることも多いため、複数の場を設けての段階的な指導と安全面への配慮の開設を心掛けている。

「生涯スポーツⅡ」では、スキーの実習であるため、天候や地形、健康面を意識しながら安全に滑走することを指導している。スキーの実技能力は学生によって差があるため学生を能力別のグループに分け、個人にあった適切な指導を行っている。

②講義系授業では、パワーポイントを使用し、教室において視覚的に理論などを学生が捉

えやすいようにしている。また、ブレインストーミングやKJ法などのグループワークを取り入れ、学生が講義を聴くのみではなく自ら学んでいくことのできるアクティブラーニングを多く取り入れている。

４．教育の成果（行った結果どうだったか）

「体育実技Ⅰ」では、授業評価アンケートの自由記述において「初めてできるようになった」「苦手だったが指導の仕方がわかった」など好意的な意見が多く、実技ができるようになることと指導ができるようになることの両面ともに成果が出ていると考えられる。「中等教科教育法Ⅲ・Ⅳ」では、講義を通して学生の持つ「つまらない」「先生が話しているだけ」という保健のイメージが「生活に必要」「大切」「教えるのが大変」など指導の重要性に気付くことができるようになり、その重要性を認識できるようになっている。

５．教育における今後の目標（これからどうするのか）

教員免許取得に必要な科目を担当しているため、学生一人ひとりが保健体育教員やスポーツに携わる者として、人に教えたり、健康面・安全面に気を遣えたりできるように教育に携わっていきたいと考える。そのために、学生には課題意識を持って主体的に取り組み、課題解決できるような支援や各種授業、担任業務において学生の将来を見据えて寄り添った教育を心掛けていきたい。

【添付資料】　※全部又は一部の現物を省略しています。

（2024年８月31日現在）